

「善意」の帰結

宗教的対立を背景に、
テロと戦争の連鎖が続く
最近の世界情勢を見るとき、
ある歴史小説家が語った言葉が、
思い起こされます。

あなたは、なぜ、
ヒトラーやムッソリーニなど、
歴史的に悪名高い独裁者さえも、
一人の人間として描こうとするのですか。

その問いに対して、
小説家は答えました。

どのような独裁者や専制君主のなかにも、
一人の人間としての善意があり、
その善意が、恐ろしい結果をもたらしたからです。

たしかに、歴史を振り返れば、
どのような独裁者も専制君主も、
人々から熱狂的に支持された時代を持ち、
そして、人々に語る言葉は、
つねに、善意に満ちていた。

そのことを思うとき、
かつて、カール・マルクスが
『資本論』において語った言葉が、
心に浮かびます。

「地獄への道は、善意で敷き詰められている」

なぜ、人々の善意から発した行為が、
最悪の社会を生み出してしまうのか。

その問いは、21世紀、
我々が答えを見出すべき
最も大切な問いなのかもしれません。